匂いの表現とその共感覚性

——感性の計量法に関する研究(4)——

神宮英夫(東京学芸大学)

Representation of Smell and Common Sense
Hideo Jingu (Tokyo Gakugei Univ.)

匂いの表現については、多くの研究がある。ヘニング(Henning, H)の有名な「匂いのプリズム」では、花・果実・腐敗・薬味・樹脂・焦燃の6種類を基本の性質と考えている。現在、一般的には、匂いの物理的属性に基づいた表現と嗅覚以外の感覚属性に基づいた表現とが使われている。

物理的属性に基づいた表現は、匂いに関する専門家によって比較的多く使われている。例えば、「フローラルグリーン」は、花園や草木を連想させるさわやかな匂いを意味している。また、専門用語としては、他に、「オリエンタル」(甘くて濃厚な匂い)や「シブレ」(キプロス島をイメージした匂い)など、多種多様で複雑な表現がとられている(高島, 1995 品質 p.34-40)。

嗅覚以外の感覚属性に基づいた表現は、一種の共感覚的表現である。ある匂いに対して、明るい・暗いという言葉で表現することは、嗅覚の入力刺激を視覚に関する表現で出力していることになる。また、重い・暖かいなどの触覚表現や、うるさい・高いような聴覚表現や、甘い・にがいのような味覚表現がある。

共感覚(synesthesia)は、ある感覚様相の刺激が同時に他の感覚様相も生じさせる現象である。一般によく知られているのは、「色聴」である。これは、音刺激が与えられ

た時に、音の感覚以外に色彩感覚をともなう現象である。単純な音に対してはあまり頻繁には現れないが、音楽を聞いた場合にはかなりの人に現れる。このような現象は、1つの入力刺激によって、複数の出力反応がもたらされることを意味している。通常の入出力関係(刺激-反応関係)は1対1であり、精神物理学の基本である。共感覚は、1対多の関係が存在することを意味している(神宮, 1993;1994 人間工学会シンポジウム)。

以下では、匂いの違いによって、共感覚的表現にどのような特徴があるのかを明らかにすることが目的である。

〔方法〕

○材料 ムスク、レモン、ローズの3種類の香料をガラスの器に入れ、中が見えないように薄い布でふたをした。

○被験者 計61名の男女の大学生を被験者とした。

○表現用語 視覚・聴覚・触覚・味覚に関する形容詞・形容動詞を「岩波国語辞典第4版」より、各感覚につき8個の合計32個を選び、表現用語として用いた。視覚については、明るい(1)・暗い(17)・艶のある(5)・色あせた(21)・不透明な(9)・透明な(29)・ぼやけた(13)・あざやかな(25)である。聴覚については、ぎしぎしする(4)・ゆるやかな(20)・

こもっている(8)・響きのある(24)・高い(12)・低い(28)・静かな(16)・うるさい(32)である。触覚については、さらりとした(3)・べとべととした(19)・ふんわりとした(7)・うすっぺらな(23)・かたい(11)・やわらかい(27)・ざらざらした(15)・なめらかな(31)である。味覚に関しては、こってりした(2)・あっさりした(22)・味気ない(6)・味わい深い(18)・甘い(10)・にがい(26)・すっぱい(14)・しぶい(30)である。括弧内の数字は、変数番号である。

○手続き 個別に実験を行った。匂いを大きく3回かぎ、これを表現するのに適当だと思うられる用語を選ぶ。この選択数には制限を設定しなかった。各被験者での匂いの提示順はランダムである。32個の表現用語の提示もランダムにして行った。

〔結果と考察〕

各被験者が選択した表現用語に1点、選択されなかった表現用語に0点を与えて、平均値を求めた。下図は、視覚と触覚の結果である(数字は変数番号である)。

次に、数量化III類で以下分析を行った。ムスクでは5次元で説明率が40.8%であり、レモンでは49.2%であり、ローズでは38.3%であった。各表現用語の値を空間表示して、感覚毎でのまとまりから、各匂いの特徴を分析した。

視覚に関して、ムスクでは、9・13・21という彩度の低さを表す用語がまとまっていた。逆に、レモンでは1・5・25・29という彩度の高さを表す用語がまとまっていた。また、ローズでは、9・17・21のまとまりと、5・29のまとまりとが存在し、透明度が視覚との関わりにとって重要な側面となっていると考えられる。

聴覚で特徴的なことは、低いという用語が、ムスクではネガティブにレモンではポジティブにローズではそのどちらにもとらえられていた。また、高いは、レモンではネガティブにローズではポジティブにとらえられていた。

触覚では、3種の匂いで共通に比較的好くまとまっていた。このことは、嗅覚と触覚との根本的なつながりを意味していると考えられる。また、さらりとしたという用語は、ムスクではポジティブにレモンではネガティブにローズではそのどちらにもとらえられていた。

味覚では、ムスクとローズとが同じ傾向をしめし、レモンとは異なっていた。ムスクとローズとで、26・30がまとまり、6・14がまとまっていた。

嗅覚と触覚とには、匂いを問わず密接な関係が推測できる。また、視覚と味覚では、匂いの種類によって、嗅覚との関わり方が異なっていると考えられる。